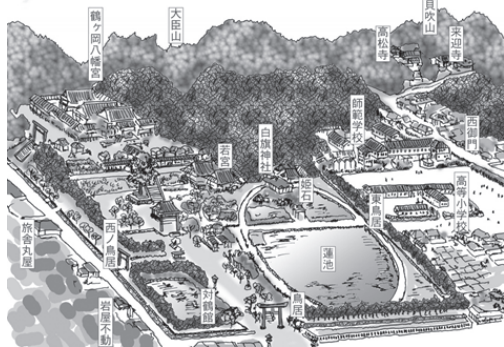


けられ、池の周りを馬が走っていた。何のための神仏分離なのか、誰にも利することのない暴挙であった。



明治 29 年版「相模国鎌倉名所并江之島絵図」(筆者模写)

### 叶神社では

浦賀港の西岸にある叶神社は現在「西叶神社」と呼ばれている。向かいあう東側に元禄時代分祀した「東叶神社」があるからだ。江戸時代から細長く幅の狭い港の兩岸を渡し船がつないでいる。船先に乗ると海から神社の参道、石段、社殿が一直線に拝める時間がある。ペリーの来航時、「俺が副奉行」

と称し、旗艦サスケハナ号をくまなく探偵して、ペリーがその大胆な行動に驚いたという奉行与力中島三郎助も日々その神々しい景色に手を合わせていたであろう。今はない別当は現在の社務所辺りだという。

現住の叶神社宮司の感見武氏は第七十四代目(神職宮司五代目)になる。同社の廃仏毀釈について、当時同社でも破壊行為があったのかお聞きすると、「他で起きたよいうなひどいことはありませんでした。ご本尊だけは大切に隠して保管しました。この辺の寺社は皆そうしたと思いますよ。」との答えだった。

### 〈参考文献〉

- ・ 廃仏毀釈百年・虐げられつづけた仏たち 佐伯恵達 鉾脈社
- ・ 神々の明治維新―神仏分離と廃仏毀釈・安丸良夫 岩波新書
- ・ 鶴岡八幡宮寺・鎌倉の廃寺・貫 達人 有隣新書
- ・ 神道とは何か・神と仏の日本史・伊藤 聡 中公新書
- ・ 浦賀湊の景観及び機能とその変容過程 歴史地理学調査報告1 2号 加藤晴美・千鳥絵里

## 土佐藩士の職務異動から幕末・明治維新期の時勢を読む

中村 康 男

土佐藩土下村銚太郎盛俊は、私の高祖父で、高知県立高知城歴史博物館所蔵の「御侍中先祖書系図牒」によると、元祖下村五郎兵衛盛明から数えて九代目に当たり、父が庄左衛門盛則、跡取りが省助盛吉である。

私の祖父盛枝は省助盛吉の三男で、中村の養子となるが、下村姓を継ぐ者がいないので、我が家を谷中の墓を守っている。盛俊の江戸時代最後の要職は藩の大目付であった。明治に入り、山内容堂と三条実美の御側御用役を務め、中老職となる。明治五年に工部省の鉄道助に就任し、明治十年にその生涯を終える。この度は盛俊の職務異動の変遷から、幕末・明治維新时期の時勢を読んでみたい。

### 一、要職に就任

《》は、御侍中先祖書系図牒の滝口正哉先生による現代語訳の一部抜粋である。  
《・天保七(一八三六)年三月下村

家の惣領となる。  
・安政五(一八五八)年御郡奉行・御普請奉行御物頭格(次席)となる。》

当時の土佐藩の実力者である山内容堂は幕政と將軍継嗣問題に積極的に介入し、四賢候と呼ばれる松平春嶽、島津斉彬、伊達宗城らと共に徳川慶喜を推す一橋派として、井伊直弼ら幕府主流派と対立していた。土佐藩内においては、近習家老福岡宮内(孝茂)の仲立ちにより、容堂の信任が厚い吉田東洋が安政五年参政に復帰した。土佐藩の厳しい上士・下士の身分制度の伝統からすれば、上士だが長曾我部の遺臣であった東洋の人事は、異例の抜擢である。その東洋は上士の中でも中流層の後藤象二郎、福岡藤次(孝弟)、板垣退助等の若い人材を登用した。この時盛俊も御郡奉行・御普請奉行御物頭格に就く。ついでに言うとう、容堂は下級武士を蔑んだという

一般的な人物評に対し、プリンス  
トン大学のマリラス・ジャンセン  
教授は、「坂本龍馬と明治維新」  
の中で、容堂は形式主義や虚礼を  
嫌い、下位のを遇する、力強  
く有能な人物と高い評価をし、さ  
らに中岡慎太郎に好意を持つてい  
たとも記述している。

さて、將軍継嗣問題で勝利した  
井伊大老は権勢を強め「安政の大  
獄」を断行、容堂らは隠居の身と  
なる。藩内では東洋が、引き続き  
容堂の片腕として様々な藩政改革  
に取り組んでいた。しかし、桜田  
門外の変を機に事態は一変、過  
激な尊王攘夷派の武市瑞山（半平  
太）が坂本龍馬・中岡慎太郎ら郷  
士や庄屋を集め土佐勤王党を結成  
する。

## 二、大目付任用と免職、そして復職

・文久元（一八六一）年御隠居  
様（容堂）御歩行、後に高岡御郡  
奉行となる。

・文久三年三月福岡宮内組の足輕  
大将、外輪物頭（側近以外の家臣  
を束ねる役）となる。

・同年八月京都御警衛として福岡  
宮内が彼の地（京都）へ差し立て  
られることになった盛俊は、差し

添え人と大坂に船で直乗りするよ  
うに仰せつけられる。十月現職の  
まま、大目付となる。

・しかし翌元治元（一八六四）年  
正月当分の大目付役は免職、これ  
までの勤事も免職となる。（免職  
の理由として）、京都在勤中の暮  
らし方について気に障ることが  
あった。殊に重役の身分に対し  
重々不心得の至りであった為、惣  
領職を召し放たれ、安喜川を限り  
西は禁足（追放刑）となる。》

力をつけた土佐勤王党は吉田東  
洋と対立、文久二年四月東洋を暗  
殺し、福岡宮内ら藩上層部も更迭  
される。京都では長州を中心とし  
た尊王攘夷派と急進的な公卿が手  
を組み、政情は混迷を極めていた。

文久三年八月十七日、土佐脱藩の  
吉村虎太郎ら尊王攘夷派による天  
誅組の変が起こるが、翌日の八・  
十八の政変により情勢は逆転し、  
長州藩と攘夷過激派は窮地に追い  
込まれる。こうした京都の政変は、  
容堂にとつて、勤王党弾圧の良い  
口実となり、九月二十一日、藩主  
豊範の名で「不審の者ども取り締  
り申付け」と宣言され、それによ  
り勤王党の同志は投獄され、慶  
応元年武市瑞山は切腹を命じられ

る。警察及び監視役所の元締めで  
ある大目付・御側人の盛俊は、一  
連の事件を通して、大目付の免職  
だけでなく、惣領職も解かれ、追  
放刑までに及ぶ厳しい処分を受け  
るが、当時の時代状況や京都を取  
り巻く政治情勢から、尊王攘夷の  
活動に首を突っ込んだ可能性があ  
る。

・慶応三（一八六七）年九月御  
宥恕を以て城下に帰住を許され、  
大目付・切支丹改役・御軍備御用  
となる。》

三年半の謹慎を経て、盛俊は漸  
く大目付に復職、惣領にも復帰す  
る。折しも薩土盟約・大政奉還と  
幕末から明治維新に向かう頃であ  
る。

江戸末期の土佐藩家老である参  
政は、後藤象二郎、福岡藤次、寺  
村左膳、神山左多衛らであるが、  
中でも盛俊は後藤と福岡と親しい  
関係にあった。その理由として、  
まず盛俊は明治時代、後藤が経営  
する蓬莱社の組合員（出資者）に  
名を連ね、その傘下の長崎の高島  
炭鉱の支配人兼出納長に省助盛吉  
が就いた。因みに高島炭鉱は、破  
綻状態になり岩崎弥太郎が引き受  
け、三菱鉱業セメントそして現三

菱マテリアルへと変遷の道を辿  
る。後藤は弥太郎とは東洋門下生  
時代からの親友で、弟弥之助の妻  
は、後藤の妹である。次に福岡の  
妻敏子は、御侍牒には下村庄左衛  
門盛則娘と記載されており、盛俊  
の妹である。

藩政の中心的人物として頭角を  
現す後藤は、義理の叔父東洋が勤  
王党に暗殺されたので、恨む思い  
は容堂と同様ながらも、それらを  
水に流し、坂本龍馬を海援隊長に、  
中岡慎太郎を陸援隊長に任命する。

その兩名の働きで、大政奉還実現  
に向けての薩土盟約が慶応三年に  
成立する。盛俊が大目付に復帰し  
たのは丁度その頃である。公武合  
体を推進する土佐藩内においては、  
討幕拳兵派の板垣、武力なき倒幕  
派の後藤と福岡、それと佐幕派の  
寺村とに意見が分かれていたが、  
土佐藩も徐々に討幕に向けて動き  
始める。そんな時、坂本と中岡が  
京都の近江屋で暗殺される。激動  
の幕末・明治維新时期は教育水準も  
高く、『志』を持った若い優秀な  
人材を多数輩出したが、多くを失  
いもした。

その後、王政復古の大号令が宣  
言され新体制が樹立、翌年の戊辰

戦争において新政府が勝利して、天皇陛下が五か条の御誓文を発表する。江戸を東京と改称し、明治の年号となる。

三、中老職と工部省鉄道助の就任  
・明治元（一八六八）年御隠居様御側御用役、外交役、貢士（新政府の立法院の議事所に出仕して議事に参与した人）となる。

・明治二年一月、参政公儀人と中納言様（三条実美公）御側御用役、三月に父の跡目を下され、四月には中老職に就任する。

・同年十一月第三等官小参事・東京郵務局公用人、御家令（三条実美の家令）兼職となる。盛俊が時勢変動の中、藩政の要路にあたって苦勞を重ねたことを藩主が満足に思し召しになり、金七拾兩を遣わされる。

・明治三年七月第三等官公務局参務兼公用人（太政官制発足による藩の役職で、中老格）となる。

時世は変わり明治時代、盛俊は容堂と実美の御側御用役を務め、父の死去に伴い正式に跡目を相続し、その年に中老職に就任する。そして、明治新政府の太政官制の役職の発令をもって御侍牒の記録は終わっている。

その後の盛俊は、三条実美太政大臣のもと、工部省の鉄道助に就任し、明治五年日本初の鉄道新橋―横浜間のお召し列車に、天皇陛下をはじめ明治政府の重鎮らと共に八号車に同乗する。乗車者名簿（凶参照）を見ると、政府の重臣である岩倉具視・木戸孝允・大久保利通・伊藤博文が乗っていないことを不思議に思ったのだが、その時期一年九か月に亘る岩倉具視使節団が欧米を訪問、それで疑問が解けた。当時の情勢や交通事情から分からなくもないが、長い政治空白は今では考えられない。話は戻り、鉄道開通の道のは決して平坦ではなかった。明治新政府の財政は火の車で、西郷や大久保ら多くの反対者がいた。それでも

開通が実現したのは、佐賀藩の制限重信、長州藩欧州留学組の伊藤博文と井上勝の三名のお陰である。殖産興業の担い手として工部省が明治三年に設立され、後藤象二郎が初代工部省大輔、後任に伊藤博文が工部卿も兼務、井上勝が鉄道頭、事務方として、盛俊が文書局の責任者に、次席は海援隊の長岡謙吉、会計局の責任者が海援隊の吉井源馬と土佐藩出身者で占めていた。日本の鉄道の発展において、日本初の私鉄日本鉄道会社の社長を務めた土佐藩出身の小野義真も忘れてはなるまい。文明開花の音がする明治初期、土佐藩出身者たちは、日本の近代化に向け鉄道事業のレールを敷いていた。

四、終わりに  
先祖を知る上で、百五十年前のことさえ、一般的に資料は少なく、遠い昔のように思える。そんな中、私は（御侍中先祖書系図牒）を手にし、当初は字が読めず分からないことだらけだったが、現代語訳した内容を見て驚いた。職務の変更の都度役職名と役領知等が詳細に記載されている。昨今、官庁の公文書の管理の杜撰さが問題視されているが、記録の重要さを痛感した。無名な土佐藩士の職務異動の記録だが、時の移り変わりの様子がひしひしと伝わってくる。本稿が過去を知り、未来に生かすきっかけになれば幸いである。今回、高知県立図書館の渡邊哲哉氏と成城大学の滝口正哉先生の

木戸孝允書簡集より

301 下村鉦太郎

2 明治(3)年閏10月23日 人二八

寒気晨夕難堪御坐候得共愈御清穆御奉職奉欣然候。賤弟碌々致送日候。陳は今般藩政改革之儀申上度件々有之、昨日板垣退助、福岡藤次参着仕候。然に此度は輔相、納言、参議諸公御列席候間にて公然議事仕度、方今猜忌不少候得は先生へ拝趨し御内話仕候義態と差扣候間、右議事の席へは先生必御列座被下当否御弁論被下候様仕度、

然後に尊宅へ罷出委曲可申上、此段小生より先生へ先得芳意置候様兩人より被相頼候に付、不取敢申上候。前条議事は独り藩政のみならず候間、宣敷御含置至急に相運候様御周旋奉伏願候也。敬白

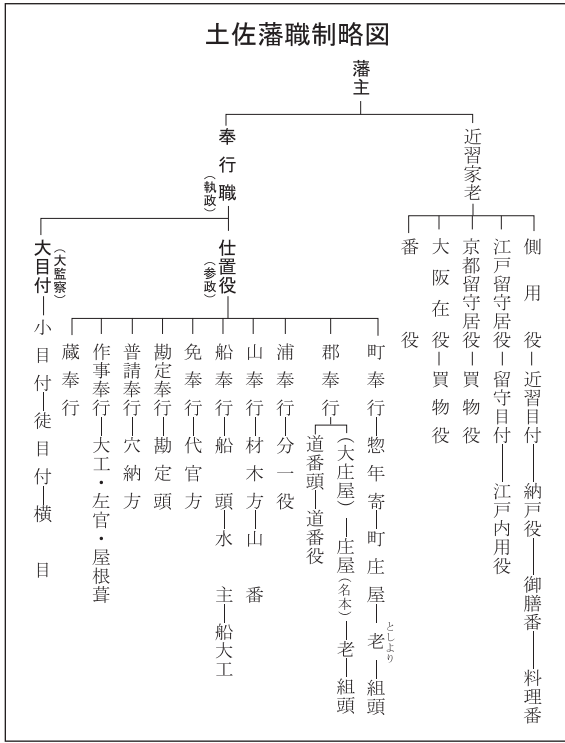
閏十月廿三日

下村鉦太郎

参議木戸君閣下

土佐藩職制略図

(「高知城下町読本」土佐史談会・高知市より)



お二方には色々貴重な助言を頂きました。紙面を借りまして心よりお礼を申し上げます。

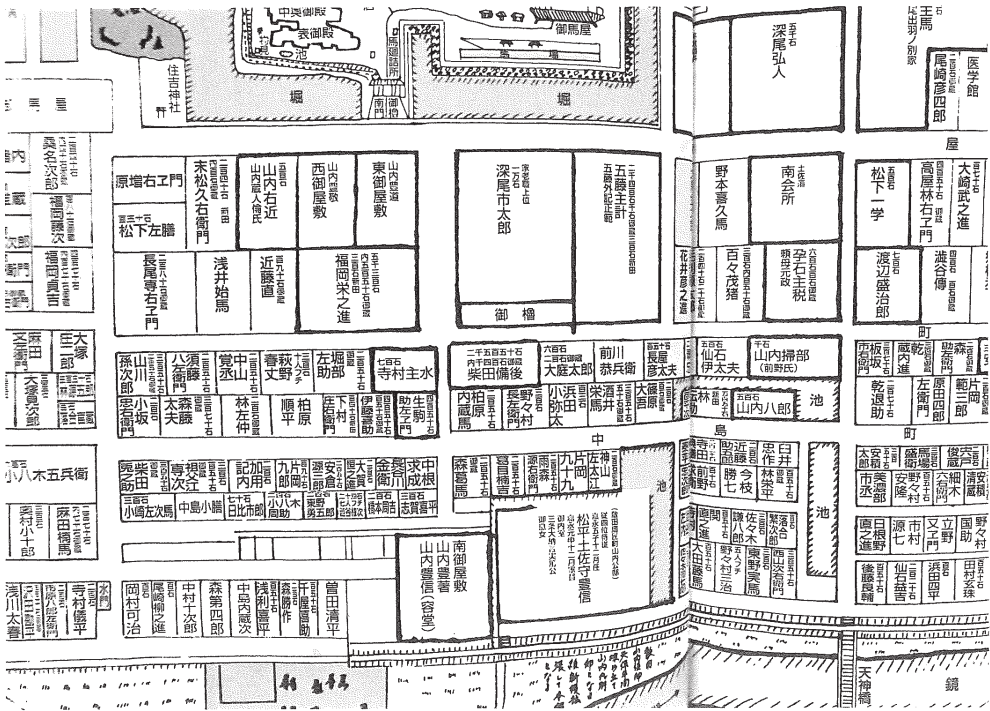
**主な参考文献**

「土佐藩」平尾道雄（吉川弘文館）、「坂本龍馬と明治維新」マリ・アス・ジャンセン著（時事通信社）、「工部省とその時代」鈴木淳（山川出版社）、「近代天皇制の展開」遠山茂樹編お召列車論序論原田勝正（岩波書店）、「日本鉄道の形成」中村尚史（日本経済評論社）。

「三菱の経営多角化」小林正彬（白桃書房）、「小野義真と日本鉄道株式会社」井上琢智（経済学論究）

**【筆者紹介】**

平成29年8月入会。横浜市青葉区在住。還暦を機会に、昔取った杵柄で、落語の稽古を再開。演芸サークル、楽笑友の会を旗揚げ、26名の会員数に。特に江戸の歴史・文化を勉強したいと思い横歴に入会。高座名は浮世亭寿八。



左端中央上・福岡藤次、中央寺村主水左下・下村庄左衛門（庄右衛門は間違い）、右端中央・乾（板垣）退助・その下端・後藤良輔（象二郎）

【高知郭中図 幕末（1860年頃）（ペン字を活字化）「高知城下町読本」土佐史談会・高知市より】

## 日本初の鉄道「お召し列車」の乗客者名簿 (「近代天皇制の展開」お召列車論序論より)

- 1号車・2号車…近衛護衛兵
- 3号車…明治天皇、有栖川宮熾仁親王、太政大臣三条実美、鉄道頭井上勝、工部大輔山尾庸三、式部寮七等出仕四辻公賀、式部助橋本実、侍従長と侍従
- 4号車…参議の西郷隆盛・大隈重信・板垣退助、左院議長後藤象二郎、外務卿副島種臣、文部卿大木喬任・教部卿嵯峨実愛、イタリア全権公使と通訳官、アメリカ全権公使と通訳・書記官、オーストラリア弁理公使、スペイン代理行使と書記官、フランス代理行使と書記官・通訳
- 5号車…司法卿江藤新平、左院副議長伊地知正治、大蔵大助井上馨、陸軍大補山県有朋、海軍大輔勝安房、司法大輔福岡孝弟、教部大輔穴戸璣、宮内大輔万里小路博房、開拓次官黒田清隆、大内史土方久元、租税頭陸奥宗光、陸軍少輔西郷従道、海軍少輔川村純義、教部少輔黒田清綱、ロシア代理行使と書記官、イギリス代理行使、オランダ書記官
- 6号車…司法権大判事松本暢、司法権大判事玉乃世履、宮内少補吉井友実、大蔵省三等出仕上野景範と渋沢栄一、工部省三等出仕佐野常民、宮内省三等出仕福羽美静、東京府知事大久保一翁、陸軍少将の三浦一貫・鳥尾小弥太・篠原国幹・谷千城・野津鎮雄、海軍少将の中牟田武臣と伊東祐鷹、少内史巖谷修、宮内丞職員2名
- 7号車…従一位の中山忠能と徳川慶勝、正二位の二条齐敬と松平慶永、従二位の大原重徳・池田慶徳・中御門経之・毛利元徳、従三位の沢宣嘉・亀井茲監・島津忠良、従四位の細川護久と池田章政、琉球世史伊江王子
- 8号車…工部大丞吉井正澄・工部少丞大野誠、鉄道助の下村盛俊と太田資政、工部省六等出仕安永弘行、式部侍従
- 9号車…工部省七等出仕の竹内正義と谷津通孝、鉄道寮七等出仕伊藤勅典、式部侍従

